

遊学俳句

吉谷夏洞選

優秀

囀ささや仁王の腕の力瘤

浜口 福子(関屋北)

(評)この句囀と仁王の腕の力瘤との取合わせ誠に珍しく静かな囀の声を聞きつつ立つ作者の目に山門の仁王の太い腕の力瘤がぱつと飛び込んで来て句になったもので仁王門の背景がバツクに心地よい囀がすらりと詠われて季語の囀が響くよい句である。

値くずれの株に縁なく毛糸編む

森岡 節子(西真美)

秋ざくら花あざやかに風のいろ

中沢 宣誠(関屋北)

古希の旅初日を拝む石鏡城

吉田やちよ(穴 虫)

三日月の刃鏡やまがたき霜夜かな

川瀬清津矢(下田西)

春の宵シャルウィングスにときめきぬ

奥村 成子(関屋北)

恙なき余生や柚子湯あふれしむ

近倉 利子(関屋北)

言い過ぎてやがて寂しきれんげ道

田中 舒子(北今市)

御開帳のおもしろ説法若葉風

清南美彌子(関屋北)

合唱はいのちの賛歌雨蛙

厨子トミ子(上 中)

魚の目に竹串刺さる寒さかな

高谷 康子(西真美)

亡き母の記憶の中の茶摘み唄

河村須賀子(畑)

もみじして式部ゆかりの館跡

島津 幸子(西真美)

峠道今は廃れて朴の花

黒川 静雄(上 中)

蒼天に月を冠して大冬木

西川 徳蔵(真美ヶ丘)

(総評) それぞれの個性のある捉え方をして詠おうとしているねらいがはつきり出ている。自分の作った句について作り放ちしないで、よく推敲することの大切さを知ってほしい。推敲することにより句が磨かれ句がよくなるのです。次のことに注意してください。

- 一、自分の詠おうとすることが句に出ているか。
 - 二、用語や叙法に無理はないか。
 - 三、一句の声調(リズム)が内容に適合しているか。
 - 四、類句はないか。
- 以上

笛太鼓欠けて揃はぬ雛雛

以上

遊学短歌

二城しづ子選

優秀

「おあづけ」に坐りて

ひたすら皿を見る

老犬なれど幼顔して

山本晴子(真美ヶ丘)

(評)人間に馴らされたものの素直さとその奥に見るもののあわれが心を捉えます。結句の「幼顔」の発見で一首が生きました。

臘梅の透ける花びらふるはせて
香りほかに風の戯る

田中 操逢(坂)

苦しみは魚にもあらむその刹那
大きく喘ぐ産卵の鮭

中島都思子(藤 山)

贈られし花束抱え帰り来て
停年の夫は少し照れをり

浴野 一美(五位堂)

秋一号に吹かれて来しか赤とんぼ
槇の緑に際立ちて見ゆ

田中 悦子(穴 虫)

ひちりきの調べさやかに流れる
雅楽の舞の胸にひびき

浜口 信子(良福寺)

征きしまま還らぬ兄をしのびつ

白鳩群れ飛ぶ靖国に佇つ

吉田 ヤチヨ(穴 虫)

快適な生活に潜む温暖化

質素に暮せと又も子に言ふ

浜辺カズ子(穴 虫)

信号機横断最中に気ぜはしく
早く渡れとウインクをする

河村須賀子(畑)

振りかへり比良山スキー場

のぞみたり急滑降の道樹間に光る

樋谷 キノエ(藤 山)

薫つとの中より覗く寒ぼたんを
写す人あり描く人のあり

林 美代子(関 屋)

二上を映す水面に風わたり

広がる波紋よ大伯の泪

中間 伸子(穴 虫)

いよさかのためらいありて買わざりし
服の頭ちくる時経るほどに

西川 国子(真美ヶ丘)

山裾に取り残されし柿あまた
つるべ落しの西日かたむく

井上 菊子(北今市)

虫の音のシャワーを浴びて塾終えし
子と帰るなり駅よりの道

田中久美子(穴 虫)

(総評) 短歌を詠むということは、心を紡ぐということ。投稿歌は各自それぞれに「自分の場」を持って、多彩に歌われているのが良かったと思えます。

読みつぎで眼かすめり束縛のあ
らぬ朝夕をなに生き急ぐ

募集しています。

遊学俳句および遊学短歌では、ご投稿をお待ちしています。応募方法は作品を葉書、または封書で係までお寄せ下さい。

一人三作品まで俳句、短歌を別々に応募して下さい。

◆締め切り/平成十年十二月末

◆宛て先/〒6839-0229

香芝市役所 企画政策課

「香芝之遊学」編集係

